

はじめに

昨年は、1月1日の元日に令和6年能登半島地震が発生し、北陸地方に甚大な被害をもたらしました。また、9月には復興へ向けて歩みを進めていた石川県を記録的な大雨が襲った令和6年奥能登豪雨が発生し、河川の氾濫や土砂災害等により、多くの尊い命が失われました。8月には日向灘を震源とする地震発生により南海トラフ地震臨時情報が発表され、地震等による自然災害がいつ起こっても不思議ではないと多くの人が感じたことと思います。

能登地方の災害では、消防から緊急消防援助隊が能登半島へ派遣され、当局からも大阪府大隊活動隊として現地で救助・救急活動に従事してきました。現地では警察・自衛隊の防災機関と連携をとり地震災害と水害の両方ともに厳しい環境の中、活動を実施してきました。

災害対応には、行政による「公助」に加え、自分自身や家族の身の安全を自分たちで守る「自助」、地域が一緒になって協力して助け合う「共助」とともに、「備え」が特に重要であると言われています。地域防災を担う自主防災組織の活動の中にも、「備え」に注力し取り組んでいるところが多数存在します。地域による災害の「備え」と普段からの各家庭における「備え」が、より有事の際の安全・安心につながると考えます。

令和6年は酷暑のため熱中症による傷病者が増加したことに加え、年末のインフルエンザの猛威の影響もあって、堺市消防局管内の救急件数は過去最高の71,436件（北署管内も過去最高で11,334件）となっています。

昨年から救急隊の増隊や臨時救急隊の編成により対応しておりますが、救急件数増加の対策は年を追うごとに切迫してきています。昨年に引き続き「救急の適正利用の推進」を呼び掛けていきますので、今年もご協力よろしくお願いします。

火災件数はここ数年減少傾向が続いておりましたが、昨年は増加し212件となり24件の増加で、北消防署管内においても22件となっています。さらに区民の皆さまの防災意識の高揚と火災の発生抑止に努め、火災減少に取り組んでいきます。

最後に、本年も職員一同北区の安全・安心に努め、さらに消防に対する信頼を損なうことのないよう励んでまいりますので、引き続き消防署へのご理解とご協力をお願いいたします。

堺市北消防署長 上野 栄太郎